

■ 平成30年度 全国学校保健・安全研究大会



平成30年10月25日(木)・26日(金)の両日、鹿児島県鹿児島市において「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進 ～自ら健康で安全な活力ある生活を送ることができる子供の育成～」という主題のもと、平成30年度全国学校保健・安全研究大会が開催された。

25日は鹿児島市民文化ホールにて全体会(開会式・表彰式・記念講演)が行われた。開会式では、柴山昌彦文部科学大臣(代理)、公益社団法人日本学校保健会の横倉義武会長(代理)、鹿児島県教育委員会の東條広光教育長等の挨拶の後、表彰式が行われ、50名の学校歯科医のほか、学校医、学校薬剤師、団体等が学校保健・学校安全の功労者として文部科学大臣表彰を受賞された。

記念講演では、日本臨床スポーツ医学会の川原貴理事長が「発育期におけるスポーツの意義と課題」という演題で講演された。

26日の課題別研究協議会は3会場にて10課題について行われた。「第5課題：歯・口の健康づくり」(会場：ベストウェスタンレンブラントホテル鹿児島リゾート)では、「生涯にわたる健康管理の基盤となる歯・口の健康づくりの進め方」として、講師に福岡県教育庁教育振興部の寺崎雅巳副理事兼体育スポーツ健康課長、指導助言者(コーディネーター)として愛知県立瀬戸高等学校の丸山洋生教頭のもと研究発表が行われた。

- ①鹿児島県立鹿児島養護学校の外園耕司教諭が、「歯科健康に関する学校と学校歯科医及び家庭が連携した取組について」と題する研究発表をされた。口腔衛生指導や歯や口の表彰式等の時間を学校行事として設定し、保護者に参加してもらうことにより、意識の啓発につながっている。聴覚支援学校での歯科健康診断の結果を視覚的に分かり易くする工夫や、手話による個別指導についての取り組みについて発表された。
- ②福岡県桂川町立桂川東小学校の穴井由貴養護教諭が、「いつまでも健康な歯・口を保つための自己管理能力の育成～生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業の取組を通して～」と題する研究発表をされた。各学年の実態に応じた学習を展開することにより、子供たちの「自分の歯を大切にしたい」という意欲が高まってきているなどと発表された。
- ③埼玉県羽生市立東中学校の皆川麻子養護教諭、渡邊マユコ教諭が、「歯・口の働きを理解し、自ら課題に気づき、考え、実践できる生徒の育成について」と題する研究発表をされた。小中学校での継続的な歯みがき指導により、歯への意識が高まり、歯みがきを行う積極的な態度が身につく、その生活習慣は卒業後も実践されているなどと発表された。

最後に、寺崎雅巳先生による「生涯にわたる健康管理の基盤となる歯・口の健康づくりの進め方～」と題する講義が行われた。(広報委員会 委員 苗代 明)

平成30年度 学校保健及び
学校安全の功労に関する
文部科学大臣表彰
(学校歯科医50名)

都道府県	氏名
北海道	遠藤 甫
北海道	河野 清
北海道	佐藤智賀志
青森県	一戸 實
岩手県	遠苧 秀則
宮城県	江川 元徳
宮城県	日野 次男
山形県	富田良太郎
山形県	増淵 武博
福島県	安齋 勲
福島県	平井 清武
茨城県	長濱 勝榮
栃木県	福田 新一
群馬県	豊田 榮
埼玉県	岡田 栄一
千葉県	小柳 尚久
東京都	酒井 克典
神奈川県	秋本 明
新潟県	木暮 達明
新潟県	廣瀬 征也
石川県	岩原 京子
石川県	柴山 和貴
福井県	峯田 信匡
山梨県	岡 秀之進
長野県	村川 勝
岐阜県	柘植 紳平
静岡県	松浦 伸明
愛知県	小野 誠二
滋賀県	木村 誠
京都府	新谷 衛
大阪府	岩本 圭司
兵庫県	右近 昭正
奈良県	奥田 明弘
和歌山県	栗山 雄治
島根県	秦 紀一郎
広島県	小西 貞夫
徳島県	久米 浩一
香川県	岩山 準
愛媛県	大内 高明
高知県	松下 巧
福岡県	草野 鴻志
佐賀県	諸隈 仁士
佐賀県	秋山 昭雄
佐賀県	池田 正明
長崎県	亀田 純輔
熊本県	中山 精文
大分県	川津 邦和
宮崎県	新田 敬介
鹿児島県	義川 伸一
沖縄県	赤崎 栄

(敬称略)

■ 第68回 全国学校歯科医協議会



第68回全国学校歯科医協議会は、10月25日(木) 16時00分よりSHIROYAMA HOTEL Kagoshima 2階アメジストにて開催された。鹿児島県歯科医師会の長田博専務理事の司会のもと、鹿児島県歯科医師会の堀川清一副会長の開会の辞で始まり、鹿児島県歯科医師会の伊地知博史会長、日本学校歯科医会の川本強会長の挨拶、来賓祝辞の後、文部科学大臣表彰受賞者が紹介された。

その後、三重県歯科医師会の田所泰会長の前回開催県挨拶、埼玉県歯科医師会の齋藤秀子常務理事の次期開催県挨拶と続き、講演は、鹿児島大学の大学院医歯学総合研究科小児歯科学分野の山崎要一教授が、「こんなところにも目を向けよう！スクリーニングとして重要な学校歯科健康診断」の演題で講演され、鹿児島県歯科医師会の西孝一副会長の閉会の辞で終了した。

引き続き、会場を3階サファイアに移し、第68回全国学校歯科医協議会懇親会が行われた。鹿児島県歯科医



師会の栄千登美常務理事の司会により、鹿児島県歯科医師会の伊地知博史会長、日本学校歯科医会の川本強会長の挨拶の後、次期開催県の埼玉県歯科医師会の齋藤秀子常務理事による乾杯の発声があった。懇親会では「4M(森伊蔵、魔王、村尾、萬膳)」の焼酎がふるまわれ、終始和やかな雰囲気の中で行われ、鹿児島県歯科医師会の福原和人副会長の閉会の辞で終了した。

なお第69回全国学校歯科医協議会は2019年11月21日(木)に埼玉県さいたま市のパレスホテル大宮で開催されると報告があった。

(広報委員会 副委員長 上田直克)

講演

こんなところにも目を向けよう！ スクリーニングとして重要な学校歯科健康診断

鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科
小児歯科学分野 山崎要一 教授



学校歯科健康診断はすべての児童生徒を対象として実施されるため、口腔機能の健全な育成を通じて、心身の健康増進を図るための教育が可能ないへん良い機会にもなる。発達期の歯科健康診断で注意を払っていただきたい特有な事項として、①歯の外傷の影響、②口腔習癖の歯列咬合への影響、③顎骨内の永久歯の形成と萌出の異常、④永久歯の先天性欠如、⑤呼吸障害の影響の5項目を挙げた。これらの項目を通じて、慌ただしい学校歯科健康診断の場で、ともすれば見逃されがちな小児期特有のさまざまな歯科的問題点を察知する“気づき”の重要性について講演された。

全国学校 歯科保健 研究大会

in OKINAWA 2018



平成30年12月6日(木)・7日(金)の両日、第82回全国学校歯科保健研究大会が沖縄県宜野湾市の沖縄コンベンションセンターにて開催された。「『生き抜く力』をはぐくむ歯・口の健康づくりの展開を目指して—学校歯科保健活動のもつ教育力を考える—」というテーマのもと、幼児、児童生徒、学生ならびに教職員の健康の保持増進を図るため学校歯科保健に関する調査研究を行うとともに、学校保健の普及及び振興に努め、その円滑な実施に寄与することを開催目的として行われた。

1日目

12月6日(木)

【オープニングアトラクション】

沖縄県立南風原高等学校郷土芸能部による琉球舞踊で大会の幕を開けた。

【開会式・表彰式】



13時より大会実行委員会委員長の(一社)沖縄県歯科医師会 米須敦子副会長の開会宣言の後、国歌斉唱が行われた。続いて主催者を代表して柴山昌彦 文部科学大臣(代理：福井利恵 初等中等教育局健康教育・食育課企画官)、(一社)日本学校歯科医会 川本強会長、(一社)沖縄県歯科医師会 眞境名勉会長、(公社)日本学校保健会 横倉義武会長(代理：弓倉整 専務理事)、玉城デニー 沖縄県知事(代理：糸数公 健康医療部保健衛生統括監)、松川正則 宜野湾市長(代理：川上一徳 健康推進部次長)より挨拶があった。次に、根本匠 厚生労働大臣(代理：田口円裕 医政局歯科保健課長)、(公社)日本歯科医師会 堀憲郎会長(代理：佐藤保 副会長)から祝辞をいただいた後、臨席を賜った来賓が紹介された。



表彰式に移り、前回開催地代表の(一社)青森県歯科医師会 山口勝弘会長に対し、川本会長より感謝状が贈呈された。

次に、第57回全日本学校歯科保健優良校表彰 ▶P.13

が行われた。優秀賞(文部科学大臣賞)は、大阪市 大阪

市立玉出幼稚園、岐阜県 御嵩町立上之郷小学校、埼玉県 羽生市立新郷第二小学校、長野県 駒ヶ根市立赤穂南小学校、鹿児島県 阿久根市立三笠中学校、香川県 香川県立高松西高等学校、沖縄県 沖縄県立西崎特別支援学校が、日本学校歯科医



会会長賞は、東京都 豊島区立旭小学校他7校、日本歯科医師会会長賞は、福岡県 北九州市立志位小学校他11校、奨励賞は、山口県 防府市立国府中学校他105校がそれぞれ受賞し、福井利恵 文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課企画官、川本強 日学歯会長、佐藤保 日歯副会長より賞状・記念品が授与された。受賞校を代表して沖縄県立西崎特別支援学校 喜久山強校長が謝辞を述べた。

米須敦子副会長の閉会の辞で「開会式・表彰式」を終了した。

【基調講演】

14時15分より、「児童生徒が身につける長寿の秘訣」という演題で首都大学東京名誉教授 星旦二先生による基調講演が行われた。PPK(ピンピンコロリ)を目指す秘訣と、将来ある児童生徒の健康長寿のために次の3点を示された。



①「子供たちの望ましい生活習慣の確立」では、高校生へのアンケート調査分析から、家族機能により生徒本人の自己肯定感を維持しないし向上させ、保護者と共に将来の話ができていたことが、悩み体験を少なくさせるとともに、充実した学校生活を送っていく上で大切である可能性が高いことが示唆された。②「健康長寿のための口腔ケア」では、都市部の歯科医院受診者を対象に口腔セルフケアと口腔衛生状態と本人のQOLとの相互関連を調査分析した結果、QOLは口腔ケアと豊かな食に支えられる因果関係が明確にされ、さらに主観的健康観と生活満足感の維持にも関連することが明確にされた。③「沖縄県の健康長寿のために」では、過去には世界的にみて死亡率の低かった沖縄県が、現在では年齢調整死亡率の改善がみられなくなった背景を探り、住宅構造の変化(木造平屋からコンクリート)によるカビの増殖と喫煙率の高さから閉塞性肺疾患死亡率が高く

なったためと示された。

最後にまとめとして、健康長寿のためにはかかりつけ歯科医師を持ち、口腔ケアが望ましく行われ、豊かな食を維持し、体型はやや太めで、総コレステロール値は高めでも、お出かけ好きで健康住宅に住むことが大切である。また、そのためには子供たちへの健康支援が最も大切で、家族の支援による自己肯定感の維持、高齢者に対しては口腔ケアを通じて食の豊かさを与え、健康寿命の延伸のためには室内カビ対策や室内空気汚染対策を公的責任として推進することを強調された。

【シンポジウム】



シンポジウムは15時50分より、座長・明海大学 安井利一学長のもと「学校歯科保健活動のもつ教育力を考える」をテーマに開催された。

シンポジストとして、昨年に引き続き佐世保市立広田小学校の福田泰三教諭による「主体的で対話的な学びを通して、健口食育の学びが深まる指導法 ～他人事から自分ごとになる自分の健口の健康づくり響育を通して～」を、続いて地元沖縄県より、KAZUデンタルクリニック院長 平良和枝先生が「学校歯科保健活動、地域連携が及ぼす教育力について ～南の島の学校歯科保健活動奮闘記～」を、沖縄県行政から沖縄県教育庁保健体育課健康体育班班長 上地勇人班長が「健康・長寿おきなわの復活を目指した学校歯科保健活動からのアプローチ」と題して講演が行われた。

福田教諭は子供たちの健康状態の実態を踏まえ、つねに子供たちには「なぜそれをするか？」という理由を、教師から「教わる」のではなく「自分で探求し、伝えていく」ように誘導し、これが学びになり単に知識を得るだけでなく実践に生かしていく力になるとした。その結果、子供たちが「自分の健康は自分で守る健口食育」と考えることで、未来の健口づくりを自分ごととして取り組んでいると提示した。

また平良先生は、特別支援学校においての地域の連携・協力体制の取り組みや小学校1年生の「親子歯みがき教室」の取り組みといった実践事例から数値目標を設定し、PDCAサイクルの仕組みを構築することの重要性を示した。また、多職種連携のもと「他律から自律」へ移行させるための健康教育の充実がなお一層求められているとした。

続いて、上地班長は、近年沖縄では健康づくりを総合的に推進することを目的として「早世の予防」「健康寿命の延伸」を図ることで「平均寿命日本一おきなわ」の復活を目指しているとし、各種の調査から、学校歯科保健活動の持つ教育力が後々の「健康寿命の延伸」に繋がるものと示した。

また、これらの健康課題の解決を図るためには学校保健に携わる教職員が知識や理解を深め、学校職員、学校三師、保護者等との連携が不可欠とした。

その後のディスカッションでは、福田教諭から、身体や口腔の機能が十分に発達していない子供たちが多いので、そういう子供たちの早期の発見と事後のトレーニングについて保幼小の連携が重要となってくるとの発言があった。

質疑応答では、福田教諭に児童会や保健委員会での保健主事の役割などについての質問があり、保健委員会では保護者に悪習癖などの指摘やインフルエンザ予防や生活習慣の見直しの取り組みを提示し、児童会ではその取り組みの指導をしているとのこと。平良先生には、学校歯科医として学校への関わり方の質問があり、運動会や他行事、保健委員会などを合わせて年に20回ほど学校に行くとのこと。養護教諭や保護者の子供たちを思う気持ちと先生自身の情熱があれば周囲は必ず理解を示してくれる、とした。

【ポスター発表】



会議棟Bの会議場B 5・6・7では17題のポスター発表ならびに第57回全日本学校歯科保健優良校表彰優秀賞の7校の発表が展示された。

【平成30年度 歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール作品展示】



劇場前のロビーには最優秀賞ならびに優秀賞の作品18点が展示された。

【懇親会】

懇親会は、大会会場から場所を移し19時より沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハにて開催された。オープニングアトラクションとして、スクリーンに映し出された首里城前で琉球太鼓による「琉球舞踊」が華やかに披露されて幕開けとなった。

大会会長の日本学校歯科医会川本強会長、実行委員会委員長の沖縄県歯科医師会真境名勉会長による挨拶の後、「ウチナーンチュ（沖縄ことばで「沖縄の人」の意味）」である地元の来賓からのもてなしを受けた。歓談中には「泡盛の女王」による種々の泡盛が振る舞われ、お酒好きの「大和ンチュ（沖縄ことばで「内地の人」の意味）」には身も心も酔う夜となったようだ。

2日目

12月7日(金)

【領域別研究協議会】

1. 幼稚園・認定こども園・保育所部会

座長(木本茂成教授)「歯・口の健康づくりを通じて『生き抜く力』を身につけるための幼稚園・認定こども園・保育所での歯科保健のあり方を考える(乳幼児期における口腔機能の発達支援)」, 研究発表①乳幼児期における歯・口の健康づくり ~卒園にはむし歯0本をめざして~, ②健康教育は「生き抜く力」の礎 ~学校歯科保健活動のもつ高い教育力~。

2. 小学校部会

座長(川戸貴行教授)「学校歯科保健と口腔衛生学」、研究発表①心身の発育や健康に関心をもち、自ら健康の保持増進に努力する児童の育成 ~学校歯科医と連携した歯・口の健康づくりを通して~, ②歯・口の健康について 自ら気づき、考え、実践する児童の育成。

3. 中学校部会

座長(和泉雄一教授)「歯周病と全身の健康との関わり ~中学生からはじめる歯周病予防~」、研究発表①生徒の自己肯定感を育む歯と口の健康教育、②様々な活動を通して、主体的に歯・口の健康づくりに取り組む生徒の育成 ~「歯・口は健康の入り口」をキーワードに~。

4. 高等学校部会

座長(相田潤准教授)「より充実したユニバーサル・ヘルス・カバレッジに向けて: 高校生までの医療費の無償化を考える」、研究発表①高等学校における歯・口の健康づくりの進め方 ~個別歯科指導の工夫と歯・口の外傷予防の取り組みを通して~, ②生涯の健康管理能力の育成をめざし

た歯と口の健康づくり ~学校歯科医との連携を通して~。

5. 特別支援教育部会

座長(弘中祥司教授)「特別な配慮が必要な児童・生徒への歯・口の健康づくりのために」、研究発表①当特別支援学校における歯科保健活動 ~なかよくげんきにほがらかに生きる人間の育成を目指して~, ②実態に応じた歯みがき指導と食べ方(摂食)指導の実践報告 ~「オーダーメイドの歯みがき指導」と「なんとか食べるから、上手に食べられるへ」~。

【ポスター発表表彰式】



11時50分より会場を劇場に移して、ポスター発表の表彰式が行われた。大会会長表彰は、こども園るんびにいの「発達の連続性を考えた取り組みの深化 ~めざす10の姿を取り入れた歯・口の健康づくりを通して~」に、沖縄県歯科医師会会長表彰は、(一社)東京都学校歯科医会の「都内中学生と高校生を対象とした学校歯科保健調査 第1報 口腔保健行動および生活習慣について」に、審査員特別賞は、(一社)愛知県歯科医師会地域保健部Iの「幼児期の生活習慣が口腔機能に与える影響 第2報 ~調査結果の関連性~」にそれぞれ決まり、表彰状と副賞の授与が行われた。

【大会宣言】

12時より同会場にて、大会宣言の朗読が(一社)日本学校歯科医会 長沼善美専務理事から行われ、宣言文が川本会長に提出された。

【閉会式】

12時15分より閉会式に移り、次期開催地が山口県に決定されたことが川本会長より報告され、川本会長、(一社)沖縄県歯科医師会 眞境名勉会長、(公社)山口県歯科医師会 小山茂幸会長の三者による「学校歯科医の鐘」の引き継ぎが行われた。次期開催地紹介DVDが流され、次期開催者代表として小山茂幸会長が挨拶をされた。

最後に(一社)沖縄県歯科医師会 米須敦子副会長の閉会宣言により2日間の大会の幕を閉じた。

(広報委員会 委員 白木完治/市原三千子)

大会宣言

我々は、ここ沖縄の地に20年ぶりに集い、第82回全国学校歯科保健研究大会を、~「生き抜く力」をはぐむ歯・口の健康づくりの展開をめざして~という主題のもと開催し、副題である「学校歯科保健活動のもつ教育力」を考え、その無限の可能性を再確認した。

生涯にわたる歯・口の健康保持においても、学校保健教育が不可欠になっている。

児童生徒一人ひとりが、自分の生涯における健康を創出できるように学習していく手助けが、我々の真の役割である。

健康教育を進めていく上で学校保健活動こそが、次世代の健全なる成人育成の源である。

我々、学校歯科保健関係者は学校・家庭・地域および行政と一層の連携を図り、包括的な歯科保健活動を精力的に展開することにより「歯・口の健康づくり」を強力に推進することを誓い、ここに大会宣言する。

平成30年12月7日

第82回全国学校歯科保健研究大会

大会を終えて

第82回全国学校歯科保健研究大会を終えて

一般社団法人 沖縄県歯科医師会 会長 真境名 勉



昨年(2018年)の12月6日・7日に沖縄県宜野湾市沖繩コンベンションセンターにて開催されました「第82回全国学校歯科保健研究大会」には、全国各地から多数の学校歯科保健関係者の参加をいただき、盛会裡に終えることができました。大会の開催に多大なご尽力を賜りました(一社)日本学校歯科医会をはじめとする多くの関係団体各位には、心より感謝を申し上げます。

本大会は、主題を「『生き抜く力』をはぐくむ歯・口の健康づくりの展開を目指して」、副主題を「学校歯科保健活動のもつ教育力を考える」とし、開催いたしました。県立南風原高校郷土芸能部によるオープニングアトラクションは、琉球王朝時代の宮廷儀式を生き生きとした琉球舞踊で披露してもらい、華やかな開会となりました。表彰式の後、基調講演は星 旦二先生(首都大学東京 名誉教授)から「児童生徒が身につける長寿の秘訣」と題してご講演いただき、将来ある児童生徒の健康長寿のためには、子供たちへの健康支援が最も大切である等、たいへん貴重な提言をいただきました。また、安井利一先生(明海大学学長)を座長としてのシンポジウムは「学校保健活動のもつ教育力を考える」と題して、3名のシンポジストから多くの示唆に富んだ知見をいただきました。本大会は初の試みとして、ポスター発表の参加者投票による表彰を行い、高い評価をいただきました。本大会を契機に、本県の児童生徒の学校歯科保健の向上に努めていく決意を新たにしました。結びに、ご参加いただきました多くの皆様の今後のご活躍とご健勝を祈念申し上げ、開催地を代表してご報告とお礼のご挨拶といたします。

次年度開催地(山口県)から

第83回全国学校歯科保健研究大会のご案内

公益社団法人 山口県歯科医師会 会長 小山茂幸



第83回全国学校歯科保健研究大会が本年(2019年)10月17日(木)、18日(金)に、山口県において開催されます。長い大会の歴史の中で、本県での開催は初めてとなります。開催地山口市は西の京とも謳われ、メイン会場の山口市民会館周辺にはザビエル記念聖堂や「日本の道 百選」のパークロードがあり、散策も楽しめます。近くには湯田温泉もありますので、ゆっくり滞在していただければと思います。

基調講演には、ベストセラー『「学力」の経済学』の著者で慶応義塾大学総合政策学部准教授の中室牧子氏を招いて、統計データなどの科学的根拠(エビデンス)に基づく教育について、ご講演いただく予定です。教育経済学の視点が、家庭・学校・社会における教育と学校歯科保健に活かされることを期待しているところです。

新元号となり初めてのこの大会が、学校歯科保健の推進に貢献できるよう鋭意準備してまいります。皆様の大会への参加を心よりお待ちしております。

領域別研究協議会に参加して

■ 幼稚園・認定こども園・保育所部会

幼稚園・認定こども園・保育所部会では、神奈川歯科大学大学院口腔統合医療学講座の木本茂成教授を座長に、日本歯科大学生命歯学部小児歯科学講座の内川善盛教授をアドバイザーとして、2題の研究発表があった。

まず、木本教授より「生き抜く力を身につけるための歯科保健のあり方」として、子供の食の問題やそれに対する歯科医療関係者の対応が示され、続いて、「小児の口腔機能発達評価マニュアル」作成の経緯の説明があった。また、「口腔機能発達不全症」については、この病名の管理指導が昨年(2018年)4月より歯科保険診療の対象となったことで、歯科における口腔機能管理の重要性が認められたとした。そして、口腔機能の育成に関するライフコースアプローチは成長発達期から重要な鍵であるとともに、この問題の早期発見と保護者に「気づき」を促すためには早期に適切

な支援を行うことと、そのための多職種連携を重要とした。

その後、社会福祉法人もとやま福祉会うむさ保育園の古波津香織園長が登壇。まず、同園では保護者の意識調査を実施して現状の把握を行い、具体的な取り組みを決定した。それにより、定期健康診断時に園医より得た情報を保護者に伝え、歯科受診については保護者に個別の保健指導をし、歯の健康に対する意識の向上に努めた。また、園児には歯の健康について興味関心の持てる工夫として、月齢ごとのブラッシング目標や収穫体験や行事食を通じて食べ物への興味や関心を育てていく取り組みを、そして、フッ化物洗口については十分に効果や安全性について園内研修をし実施の運びとなった。最近、園における取り組みが子供から親に伝わることで、保護者に直接指導助言するよりも、我が子の歯の健康に対する姿勢を見て親の意識が少しずつ変化するという好循環が生まれているとし、子

供たちが自分の体に興味・関心を持ち健康とは何かを考えるきっかけになるようにこれからも意識づけをしていきたいと結んだ。

次に、学校法人純美理学園滋賀短期大学附属幼稚園の小野清司園長の発表では、同園での特長的な活動がいくつか披露された。四つん這いで歩く体力づくりや、園で作った野菜を使った「お楽しみ給食」など歯の健康についての実践もたくさん行っている。担任による毎日のブラッシング指導や毎月8の日を「歯の日」とする取り組み、養護職員、歯科衛生士からは学年の発達段階に応じて歯みがき指導を受けている。園医は定期健康診断において職員への個別の指導や保護者対象の講演会も開催している。そして、保護者には「仕上げみがき」の重要性を説明し歯科保健の啓発に努めている。子供たちへの働きかけを通じ、子供たちの行動変容が保護者に届き、家族ぐるみの歯科保健に拡げていく必要を提示した。歯科保健は子供たちが自分の体に関心が持ちやすい利点があるので乳幼児期からの真摯な取り

組みは大変意義のあることと結んだ。

発表後の質疑応答では、定期健康診断後の有効な歯科受診勧奨についての質問があった。それには子供たちの身体全体を普段からよく見て保護者には変化をその都度伝えていくこと、また、日頃から保護者とのコミュニケーションを密に図り話しやすい環境を作っておくことも大切との回答があった。今後、健康長寿の実現に向けて全身の健康に繋がる生活習慣や口腔機能の獲得の出発点となるこの時期に、一生を通じた健康行動の重要性を認識させることが大切である。それには、子供の保護者と医療、多職種関係者の口腔機能の発達程度に関する早期の「気づき」が重要となる。また、歯や口の健康に対する意識の向上が子供から親に伝播する良い循環として現れるように、園や家庭、地域ぐるみで支援していくことが大切であることが再認識できた協議会であった。

(広報委員会 委員 市原三千子)

■高等学校部会

高等学校部会は、東北大学大学院歯学研究科国際歯科保健学分野の相田潤准教授を座長に、研究発表2題を交えて行われた。

まず、相田先生より「より充実したユニバーサル・ヘルスカバレッジに向けて：高校生までの医療費の無償化を考える」と題して基調講演があった。ユニバース・ヘルス・カバレッジ(UHC)は「すべての人が、適切な健康増進、予防、治療、機能回復に関するサービスを、支払い可能な費用で受けられること」ことであり、日本の国民皆保険制度は世界的にも先進的なUHCの制度である。しかし、歯科保健医療の分野では予防や専門的な治療の提供という面で弱点が存在する。所得格差により自己負担金が2割から3割あるだけで受診抑制が起きて、貧しい家庭の子供ほどむし歯を有する可能性が多いということは現実に起きている。貧困家庭の割合も増加傾向にあり、歯科受診抑制を増やし、受診が難しい子供が増えている。子供の医療費負担の無料化が一つの解決策であるが、自治体によって対象年齢が違うことが問題である。高校生までの対象年齢の拡大が求められるところである。どのような家庭環境の子供でも通うだけで恩恵が受けられる集団フッ化物洗口などの施策の普及も求められるが、自治体によって実施状況に大きな差が存在する。そんな背景を考慮しつつ、高等学校における歯科保健を考えると、最後のタイミングとして生涯にわたる口腔の健康を意識した教育が重要になってくると結ばれた。

基調講演の後、研究発表2題①沖縄県立首里高等学校養護教諭 渡久山由希先生「高等学校における歯・口の健康づくりの進め方 ～個別指導の工夫と歯・口の外傷予防の取り組みを通して～」、②大阪府立門真西高等学校養護教諭 久野安菜先生「生涯の健康管理能力の育成をめざした歯と口の健康づくり ～学校歯科医との連携を通して～」が行われた。

首里高等学校では、学年が上がるごとにむし歯の生徒が

増え、要観察者がいても自覚症状を実感していないので受診率は低いという実態があった。健康診断前の待ち時間に事前問診票を記入しながら健康観察と自分の健康診断結果の予想をさせたところ、実際の健康診断結果と比較でき自立性をもって健康診断を受ける姿勢に変わった。また、3年生の一部の生徒を対象に個別の歯科保健指導(学校歯科医の協力も得て)を行っていたが、平成30年度は全学年に拡大し、要受診対象者の希望者にも対象を広げた。頭痛による保健室来室者にも歯列・咬合、顎関節との関連を指導した。生徒のよく通る場所にある保健室の前には掲示物の量を増やし、歯科関連の情報を増やした。女子ホッケー部員を対象にマウスガードによる外傷予防活動も行ったところ、ホッケー部の歯・口のケガがゼロになり、他の運動部でも興味を持ってもらえた。

門真西高等学校では、アルバイトをしている生徒が多く生活習慣の乱れが見られ、不定愁訴を訴えたり、歯科治療を中断する傾向が高く、口腔崩壊の状態の生徒も少なからずみられるという実態であった。しかし近年、近隣4市で高等学校卒業までの医療費助成が拡充されたことから、処置完了者が増加した。学校内での取り組みとしては、7本以上のむし歯所有者、または口腔状態において要治療の生徒に対して2学期の昼休みに歯科相談を行っている。学校歯科医と1対1で時間をかけて実施することで、新たな知識を身につけ考えさせることができ、受診率の増加につながっている。模範となるべき生徒保健委員対象に歯みがき指導を行ったが、生徒自身のスマートフォンや携帯電話で口腔内の写真を撮ることで、みがけていないことをより強く印象付けることができた。

アドバイザーの九州歯科大学地域健康開発歯学分野 安細敏弘教授を交えたディスカッションでは、口臭予防の話題など活発な意見交換が行われた。

(広報委員会 委員 白木完治)